

第3章 工業振興の将来像と基本目標

3-1 将来像

本市は、首都圏に直結する恵まれた立地条件や圏央道開通に伴う広域的な交通利便性の向上等を背景に、県内3位の製造品出荷額を誇る工業都市として、栃木県の南都として発展を遂げてきた。

しかしながら、今後さらに進行する少子高齢化やグローバル化等が進む現代にあっては、担い手やものづくり人材の不足、付加価値の高い製品づくりなど、社会経済の変化や流れに柔軟に対応しながら、地域経済の成長・活性化に向けた取組みが求められている。

このような中、「小山市まち・ひと・しごと創生総合戦略」においても、産業の振興による新たな雇用の創出を基本目標の一つに掲げ、人と企業を呼び込む施策をはじめ、地場産業の振興・情報発信を一層推進していくことが位置づけられた。

このような状況を踏まえ、本市の工業を持続的に発展させていくため、本市の立地優位性や道路・鉄道など広域的な交通利便性をはじめ、都市と田園が調和した住みよい居住環境、さらには大学や工業高等専門学校等の立地を踏まえた人材育成可能な地盤など、本市の特性を最大限活かしながら、今後も地元企業の支援・育成と受け皿となる工業基盤の整備等による「**便利な小山市**」への企業誘致を目指すとともに、小山で育ちあるいは学んだ若者たちが、夢を持って安定して働けるような支援・環境整備を進め、多様な人材が多様に活躍できる「**魅力的な小山市**」として、さらに大きく「**未来に広がる工業のまち小山市**」へと発展していくことを目指し、本市の工業振興の将来像を次のように設定する。

【工業振興の将来像】

さらに便利に 魅力的に
未来に広がる工業のまち小山市へ

この将来像については、「第7次小山市総合計画」において「工業・企業誘致」の目指すべき姿として示されたフレーズとの整合を図っています。

3-2 基本目標

(1) 工業振興の視点

① 地元企業の支援と地場産業の振興による地域発展の視点

「第54回小山市内景気動向観測調査」など本市の景気動向を見ても、全国的な景気動向を背景としながら、徐々に景気の回復の兆しが見えるものの、楽観視はできない依然として厳しい状況である。

そのような中、本市の活力の大きな原動力となり、多くの市民の働く場である地元企業の活力維持・向上は、本市の工業域振興上必要不可欠であり、地元企業の支援・育成を継続的かつ積極的に行っていくとともに、小山らしさをアピールできる「おやまブランド」を活かした地場産業を振興していくことが重要である。

② 人と企業を呼び込む基盤整備と企業立地促進によるさらなる工業発展の視点

「小山市まち・ひと・しごと創生総合戦略」にも示されているように、人口減少に歯止めをかけるとともに、東京圏等への人口流出を食い止め、本市の経済・地域を活性化するためには、新たな雇用の創出が必要である。

そのため、本市の首都圏直結の交通アクセスの良さや、圏央道の開通に伴う新4号国道の広域交通網の利便性向上等を最大限に活用し、新たな受け皿としての工業団地の戦略的整備や積極的な企業誘致を図り、本市に人と企業を呼び込んでいくことが重要である。

■ 視点①、②のイメージ



③ 地域の雇用創出と働きやすい労働環境の確保による労働力向上の視点

少子化の進行や若い世代の市外への流出は、本市における労働力の低下につながり、本市の産業・経済にも大きく影響を及ぼす恐れがある。

そのため、地元雇用に資する企業への支援や求職者に対する支援を行いながら、地元で夢と意欲を持って働ける雇用機会を創出し、企業にとっても効果的・効率的な人材確保ができる施策の展開が求められる。

また、育児・介護や社会活動をしながら就労する人はもとより、その家族も含め本市に永く定住できるよう、より快適に働ける労働環境の確保と労働者福祉の充実に努めることが必要である。

④ 創業・起業支援等による地域活性化、将来を見据えた工業発展のための人材育成の視点

経済のグローバル化、技術革新等社会経済の変化に柔軟に対応し、地域資源を活かすなど新たな発想を持った企業は、これからの産業活性化、地域振興に大きく貢献することが期待できる。

しかしながら、若者等が新たに創業・起業するにあたっては、様々な不安や問題等を抱える場合も多く、その解消のための支援を講じていくことが求められる。

また、既存企業に対しても、厳しい経済情勢等に対抗できる企業の経営体質の強化等に対し、必要な支援を行っていくことが求められる。

さらに、若者のものづくり企業離れや熟練技能者の高齢化等に対し、企業の技術・技能等を担う人材の確保・育成が求められるほか、体験等を通じた子どもたちの本市産業への興味喚起など、学校教育機関等との連携による次代を担う人材育成についても、長期的な工業振興の視点においても重要である。

⑤ 交流・連携による効果的・効率的に進める工業振興の視点

地元企業の支援や新たな企業立地をはじめ、働きやすい環境整備、企業PRなど、本市の工業振興に欠かせない各種施策を展開するにあたっては、有効な支援策などを一体的に検討し、効果的・効率的な施策の展開が可能となるような仕組みづくりが重要である。

また、より効果的・効率的な施策の展開や新たな活力創出につなげるため、企業・事業所、学校・研究機関、市及び市民の交流・連携によるネットワークづくりも重要である。

(2) 基本目標

基本目標 1 地域とともに発展する力の創造

「活力・魅力づくり」

地域の産業を支える地元企業に対する支援を強化するとともに、競争力の強化、販路拡大の支援などにより、小山らしい地元企業の育成・振興を図る。

また、経済のグローバル化への対応や激化する地域間競争に勝ち残るため、地域の特徴である「おやまブランド」を活かした産業の振興と情報発信などを推進し、小山らしい工業振興を図る。

さらに、豊かな自然環境に恵まれた本市の特性を活かした循環型社会の形成に積極的に寄与する工業振興を図るため、今後も環境との共生をテーマに展開されている「工業団地ゼロエミッション化」を推進・発展させていく。

基本目標 2 さらに発展する工業力の創造

「人と企業を呼び込む基盤づくり」

持続的・発展的な工業発展を目指し、広域交通利便性等本市の立地優位性を活かした新たな工業団地の整備を戦略的に推進するとともに、本社機能移転など、本市への企業誘致についても戦略的に進める。

また、既存工業団地において立地企業の事業活動がより効率的・効果的に行えるよう、高度情報化社会に対応した工業 ICT 基盤の整備なども促進する。

基本目標 3 新たな働く力の創造

「雇用創出・労働環境づくり」

工業振興の新たな力となる若い世代に対する雇用機会の創出や人材育成をはじめ、そのための企業等に対する支援を行う。さらに、定住人口増にも寄与する新たな転入勤労者や子育て世代に対する支援を積極的に推進する。

基本目標 4 次代の小山を担う力の創造

「人・ものづくり」

工業振興には、事業活動を支える人材及び、中小の高度技術によって支えられているものづくり産業の育成が必要不可欠であり、本市の次代の工業振興を担う若い世代の起業家・創業家の育成、従業員等の職能向上、経営力の強化、ものづくり産業に関わる人材確保・育成などを産学官の連携のもと推進する。

基本目標 5 互いに支え合う力の創造

「交流・ネットワークづくり」

地元企業の支援とあわせ、イベント等を通じた企業PRを広く市民等に行うとともに、地域住民との交流機会の創出による地域との共存・発展を推進する。

また、工業振興に係る各種支援制度等の有効活用を促進と制度充実による中小企業の健全な事業活動の継続を図るとともに、「おやま産学官ネットワーク」を継続的に実施しながら、関係機関との連携による異業種間・企業間のネットワークによる多面的な産業振興を図る。